２０１１年１０月　第20号

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病 院 の 理 念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

「災害訓練」について

麻酔科部長　下館（しもだて）　勇樹（ゆうき）

当院は２００８年に災害拠点病院の指定を受けた後、年１回のペースで災害訓練を行ってきました。これは災害が発生して多くの患者さんが来院した場合に、私たち病院職員がどのように対応すべきかを研修する実働訓練です。

一昨年の第１回訓練は、多重衝突事故によって６０名の患者さんが当院へ搬送されるという設定で実施しました。昨年の第２回訓練は、訓練の難易度を上げるために模擬患者数を８０名まで増やし、あえて騒然とした雰囲気を作り出した上で開催しています。

このような訓練は当院では過去に行われたことがなく、当初は参加した職員の中から「これだけ多数の患者さんが病院に殺到するのは現実的ではない」との声が聞かれました。あるいは「訓練中は混乱して、何をどうして良いのかわからなかった」という感想も寄せられました。

しかし東日本大震災で報道された通り、災害時には日常の診療レベルを大きく上回る数の患者さんが病院へ運ばれてきます。災害拠点病院では入院患者数を通常の２倍、外来患者数を５倍まで受け入れる想定が厚生労働省の指針には記載してあり、当院としてはこのような状況下でも可能な限り診療を継続する必要があります。災害はいつどこで起こるか予想できませんし、ぶっつけ本番で乗り越えることもできません。当院には災害に即応できる診療体制の整備が求められており、そのためにこれからも訓練を行っていく方針です。

今年９月１７日の第３回災害訓練は、大地震によって当院のライフラインが寸断されたという設定のもとで実施されました。電気や水道が途絶えた状況で、いかに病院が診療機能を発揮するか、いかに外部機関と連携するかについて参加職員一同が取り組んだ様子を次ページからご紹介したいと思います。

なお最後になりましたが、訓練には毎年西胆振地域の各消防署と消防団、市立室蘭看護専門学院など多くの方々にご協力をいただいております。さらに今回は日鋼記念病院DMATの皆様にもご参加いただき、有意義な訓練となりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第3回災害訓練

平成２３年９月１７日実施（参加者５０５名）

≪訓練の想定≫

午前５時４５分
室蘭市で震度７の
直下型地震発生
津波の心配なし
患者約６０名を受け入れ

今年は『災害レベル３Ｂ』の想定で、ライフラインが止まり電話やインターネットなど内外の通信手段が使えない状況での訓練となりました。訓練までに院内では、ワーキンググループが毎月集まり、各担当に分かれて数回、訓練のシミュレーションを行い、当日の訓練に向けて準備してきました。

訓練当日は午前１０時１５分の開会式までに、主に看護学生や消防隊員が担当する患者役の人たちに特殊メイクをほどこし、演技指導を行う準備や、職員の出勤確認の準備、見学者の受付等が行われ、開会式後、１０時３０分から訓練が開始されました。

今回の訓練は当日「アクションカード」（災害の際の自分の役目が記載されている）を受け取り、それに沿って自ら考え、動くというもので自分が訓練開始から何分後に病院にたどり着くのか、どんな役割を与えられるのかも訓練当日に初めて知る状態となりましたので、今までで一番実際の状況に近い設定での訓練となりました。約1時間半に渡って行われた訓練は、実際の非常電源のみの状況を再現して薄暗い中で行われました。訓練はまず地震発生時、病院内で当直していた職員の患者搬送の準備から始まり、その後、時間差で参加者は受付をして、自分の「アクションカード」を受け取り、自分の役割を確認しました。

地震発生からしばらくすると正面玄関より、患者が消防隊員により搬送されたり、家族に付き添われて歩いてやってきました。まだ院内の応援職員が不足のため、最初は患者が玄関に溢れていましたが、徐々に症状別に搬送され始めました。

事前のトリアージ（災害時に治療順番を決める）訓練

最終オリエンテーションで各部署より訓練目標発表

本当に怪我をしたような生々しい特殊メイク

受付で「アクションカード」を受け取る職員

『災害レベル』とは？

あらかじめ設定した災害時の基準のこと

当院は以下のレベルに沿って災害に対応

- **0: 通常業務のまま対応可能**
- **1: 災害対策本部設置・一部応援職員要**
- **2: 必要な対応場所新設・多数応援職員要**
- **3: 全対応場所新設・全職員応援要**
- **3A: 当院被害なし、概ね通常の診療が可能**
- **3B: 当院被害あり、部分的には診療は可能**
- **3C: 当院甚大な被害、診療不能（避難態勢をとる）**

歩いて来院する患者や消防隊員に搬送される患者、待たされている患者などで玄関は混雑が続いた

患者は怪我の状態でトリアージタッグにより色分けされ、各エリアではそれぞれ治療や付添い家族の応対などの訓練が行われました。緑エリアではスタッフが患者に症状などを聞き取り、臨時薬局も開設されました。黄エリアはベッドが不足したため待合室の長椅子に多くの人が寝かされていました。赤エリアは患者の緊急度を話し合い、搬送順番の決定を行うなど、エリアごとにそれぞれ実践的な訓練が行われました。

トリアージタッグ

緑エリア（軽症）

黄エリア（中等症）

赤エリア（重症）
日鋼DMATにも訓練に参加いただきました

患者情報は壁に貼ったリストで確認

事務局には災害対策本部が設置されました。停電のなか情報収集は手書きで行われ、壁に貼られたリストやホワイトボードが活用されました。

同時に院内では室蘭消防によるトリアージ（災害時に治療の優先順位を決める）訓練や栄養科による大量炊き出しの訓練も行われました。

訓練は開始1時半で閉会式を迎え、その後炊き出しのカレーライスを訓練参加者みんなで試食し、訓練は終了となりました。

室蘭消防によるトリアージ訓練

大地震が起きたら！

大地震が起きたとき市立室蘭総合病院は被害状況に応じて、被災患者を受け入れます。その際、周辺住民の方や入院中の患者家族のみなさんにいろいろとご協力いただきたいことがあります。

入院患者家族のみなさん

『病院へ問い合わせをしないでください』

地震が起きた場合、入院中の家族のことが気掛かりと思います。しかし当院は設計上、震度6強クラスの地震が起きても崩れ落ちることはありません。地震発生当初は被災患者の対応に通信手段を使用することとしたいので、直接、病院への問い合わせはしないでください。もし、入院患者さんに何かあった場合、必ずこちらから連絡をします。ご協力よろしくお願いします。

停電

自家用発電設備が備えられているため、すぐに病室が真っ暗になることはありません。

断水

水道が止まっても受水槽設備があります。ただし貯水量に限りがあるので診療行為が優先され、入院患者さんに節水のご協力をお願いすることになります。

火災

病棟に通常、火の気はありませんが、各病棟にスプリンクラーなど消火設備が完備してあり、病院スタッフは年２回、避難訓練をしています。避難が必要な場合は患者さんを安全に誘導します。

周辺住民のみなさん

『病院へ避難しないでください』

当院は避難場所ではありません。災害発生当初は負傷者・救急隊員・当院職員・応援職員等で院内は混雑が予想されます。混乱を避けるためにも負傷者がいない場合は室蘭市が指定している各避難場所をご利用ください。

●病院周辺の避難所

■広域避難場所

1. 北辰中学校グラウンド（屋外）
2. 北辰中学校体育館（屋内）
3. 武揚小学校グラウンド（屋外）
4. 武揚小学校体育館（屋内）
5. 文化センター（屋内）
6. 常盤公園（屋外）
7. 入江運動公園（屋外）

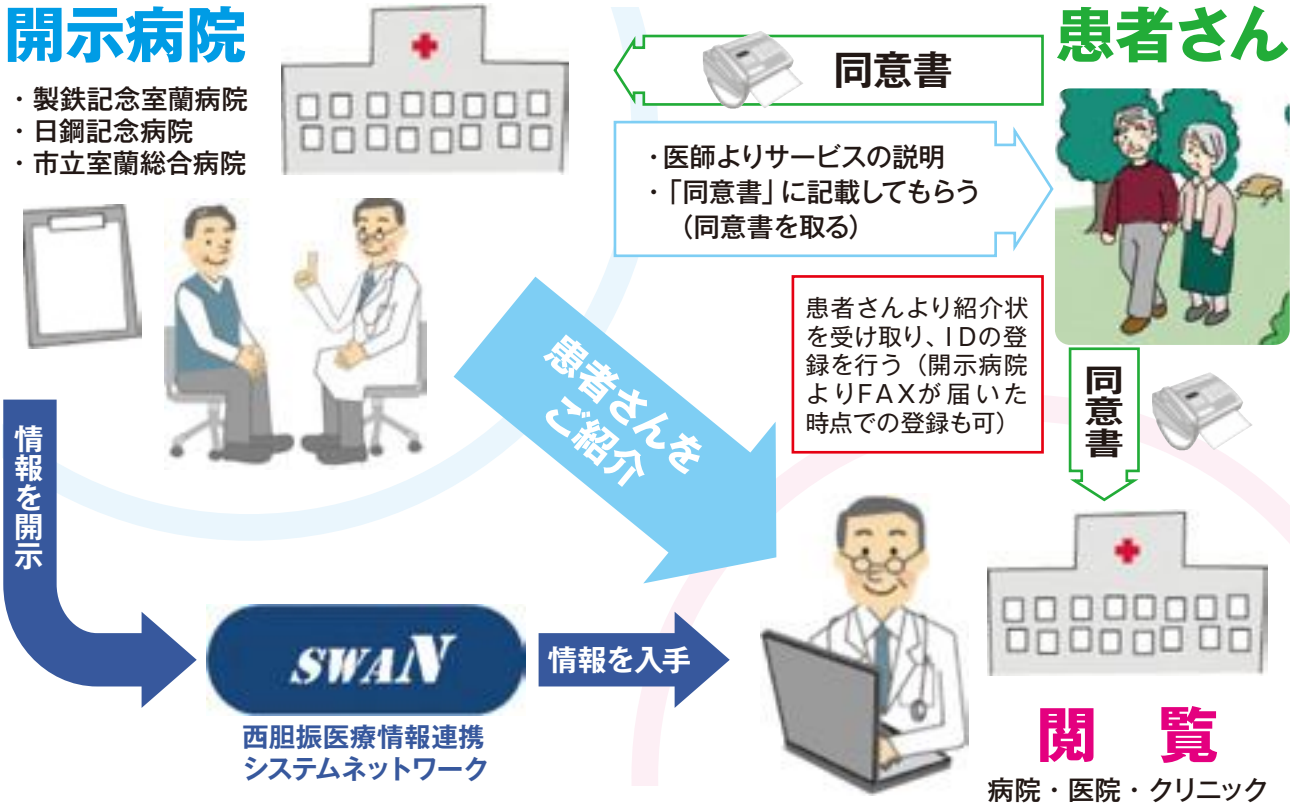
■一時避難場所

A. 開運公園（屋外）
B. 中央町3丁目会館（屋内）
C. 室蘭ベルコ会館（屋内）
D. 舟見町会館（屋内）
E. 栄町公園（屋外）
F. 常盤保育所（屋内）
G. 栄町会館（屋内）
H. 本町会館（屋内）
I. 幸町会館（屋内）
J. 中央町小公園（屋外）
K. 常盤町会館（屋内）
L. 中央町浜町会館（屋内）
M. レインボー公園（屋外）
N. 室蘭プリンスホテル（屋内）

市立室蘭総合病院 **地域連携室**

ID-Link 順調に運用！

ID-Link とは、このシステムに参加している病医院が、インターネット回線を通じて接続し、患者さんの同意のもとに、患者さんご本人の服薬や検査データ、レントゲン画像等の診療情報を共有するものです。



☆患者さんのメリット！

市立室蘭総合病院、日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院に受診されたことのある方

①3病院の薬の処方、血液検査、画像（レントゲン）等の情報を地域の医療機関と共有することができるため、転院や在宅療養時も安心です！

②検査や処方などの重複がなくなり、その分の負担が低減できます。

このシステムを利用するには、患者さんは何をすればいいの？

＊ID-Link(SWAN)専用の同意書に必要事項(名前・生年月日・住所等)を記入していただくだけです。

【ID−Link参加施設】

【参加医療機関】平成23年9月30日現在

開示病院　市立室蘭総合病院　日鋼記念病院
　　製鉄記念室蘭病院

閲覧病院　27病医院　　合　　計　30病医院

市立室蘭総合病院患者登録件数　　638件

■ID−Ｌｉｎｋに関してのお問い合せ先

市立室蘭総合病院
内線2260　地域連携室　　新井（あらい）　一（はじめ）

市立室蘭総合病院　広報委員会

〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/